

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901613		
法人名	有限会社 ライフステージ		
事業所名	グループホームひだまり Aユニット		
所在地	旭川市神楽4条1丁目3番5号		
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果市町村受理日	平成23年3月7日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901613&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

雪のない季節には近隣をゴミ拾いしながら毎日歩いています。手入れされた庭を見せられないが、季節感を感じています。堤防に上ると風が心地よく吹き渡り、耳を澄ませば小鳥の鳴き声、川の流れる音が涼しく感じます。皆「気持ちいいね。」を連発です。ジョキングやウォーキングの人、またパークゴルフに行くのか自転車の人達に会いますが、皆さんなぜか道端で会うときより大きな声で挨拶、また、唄を歌いながら歩きます。火鉢を持っている方は景色を楽しみ、耳を澄ましながらも目はゴミ拾いに余念がありません。出会う人たちに「ご苦労様。」と言われるとちょっと恥ずかしそうな表情を見せます。途中木陰のベンチで一休みしながら体調に合わせて20分から40分くらいでひだまりに戻ります。

毎朝の散歩は昨年の春から始め、参加者も徐々に増えて来ました。面会に来る家族さんに「お母さん、ずいぶん元気になって若くなったね。」と言われるほど、神楽地区は散歩コースに変化があり、地域の方々もやさしく見守ってくれています。顔のシミ・乾燥が気にはなりますが、皆さん一緒に日に焼けて元気です。一日の変化があり、五官に刺激を感じ、歩行が安定してきます。

落ち着かず外に出たがる人も少しですが安定します。また、何より近所の方々や立ち話などで顔見知りになり、入居者さんの顔を覚えてもらうことが出来ます。何かあったらきっと気づいていただくと信じています。入居されている方は市内出身者ばかりですが、昔からここに住んでいるわけではないので、一人で外に出た場合、どちらに向いて歩くかわかりません。しかし、毎日の散歩でその方の行きたい方向が推測でき、また、ここでの土地勘が出来てくるように思います。ゴミ拾いをしている方には自分も役に立ち、見知らぬ人からも有難うと言ってもらえ、地域に貢献していると感じてもらえることが出来ます。雪にうすもれしている現在、早くまた毎日散歩に行きたいと、その時少しでも歩けるように毎日ホーム内を歩行運動、ラジオ体操をしています。入居者さんのできること、したいことを最大限に生かし、毎日が少しでも楽しいものになるような生活を送ることが、介護を生業としている私たち職員の願いです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<日々のその人らしい暮らしへの支援>
一人ひとりのその日の希望にそって、日常的に散歩を楽しみながら地域の一人として町内のゴミ拾い等を行ったり、ひだまり交流祭りを開催して、地元の人々との交流に努めていると共に自宅への訪問等で馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。また、一人ひとりのペースや役割を大切に、雪はねやいもだんご等のおやつ作り、刺し子やお祭りの飾り作り等生活歴や力を活かした趣味への支援が行われている。家族には、利用者の一日の特徴的な様子を職員が日々観察し、「一日一行日誌」として伝えている。

<本人と共に過ごし支えあう関係づくり>
職員と一緒に、洗濯や掃除、食後の後片付けや茶碗洗い等を行ったり、散歩コースでのゴミ拾いやパークゴルフを楽しんだりしている。また、ペーパーフラワーや刺し子作り、保育園や幼稚園の運動会見物や中学生の体験学習を通じた交流等職員や地域の人々と協力した関係づくりに取り組んでいる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「触れあい」「支え合い」「思いあい」「語りあい」「広げあい」の5つの「あい」を掲げている。認知症老人を抱える家族介護者や地域住民の方たちと、認知症を理解し、グループホームの意義と必要性を認識して頂けるよう話し合う機会を作っている。	事業所独自の理念を作り上げ、内部の学習会を通じて話し合い、その理念を共有し、実践につなげている。また、見やすい場所に掲示し、家族や来訪者等に分かるようにしている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎朝の散歩や買い物等で出会ったときには入居者と共に挨拶や会話をする事で徐々に親しくなっている。	毎年、「ひだまり交流祭り」を開催し、地域の人々や家族、ボランティアとの交流を行っている。また、日常の散歩や買い物での挨拶、中学生の体験学習の受け入れ等で交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談に拘わらず、介護保険またその他の相談に来られた方に対して、役立つと思われる情報を提供している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者ご家族、地域住民代表者として町内会長、知見を有する者として民生委員のかたに出席をお願いして行っている。	運営推進会議では、利用状況やサービスの内容、火災避難訓練や地域との協力体制について具体的に話し合っている。	今後は、包括支援センター職員等に運営推進会議の参加を呼びかけるなどして、年6回を目標に定期的に運営推進会議を開催し、地域との協力体制構築等具体的に話し合われることを期待します。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市で行われている研修には積極的に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当者や包括支援センター職員とは、日常業務を通じて情報交換を行い、連携を深めるように努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のない介護を目指しており、何が原因なのか十分検討することで拘束をしないケアを行ってきた。夜間眠れず起きようとする人には午前中の散歩をとりいれ、寂さで動き回る人にはそばに寄り添い話をしたり、何か一緒に仕事をしたりして過ごすことにしている。	身体拘束廃止委員会を設置し、内部学習会等の実施で管理者及び職員の共有が行われている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、また学習会を行い、ということが虐待なのかという認識があり、全職員が虐待しないという点で一致している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会に参加する等で理解している。必要な方には活用できるように勤めていきたいと考えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶとき、または解約を行うときには入居者やご家族の納得のいくまで十分時間をかけて説明を行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでもご本人・ご家族からの意見・不満・苦情を受け付ける体制になっており、管理者・職員は日頃からはなしやすい雰囲気になるよう心がけている。また、職員は担当制になっていて、入居者の気持ちを理解出来るよう日頃から接することに努めている。	家族等の来訪が多く、意見や要望等よく話し合っている様子が伺える。また、家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の受付箱を設置し、市町村等の相談窓口の啓発ポスター等も掲示している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、全体ミーティングを行っている。また運営者や管理者は職員と日常的に話す機会を設け、提案や意見を聞くように努めている。	毎月、全体会議を実施して、意見や要望、提案を聞くよう機会を設けている。また、そこでの意見や提案を運営に反映している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者の身体状況、生活状況にあわせ、必要な時間帯に人員を配置している。シフトを工夫した結果、個別ケアが可能になってきている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外部の研修に積極的に参加することを勧めている。また、資格習得には資料や情報を提供することで応援している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との研修等に参加することで交流をはかり、サービスの向上のために情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から面会の時間を十分にとり、これまでの生活のなかでのご本人の思いや、不安なことを聞き、受け止めるようにしている。			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から面会の時間を十分にとり、これまでの生活のなかでのご家族の思いや、不安なことを聞き、受け止めるようにしている。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な時間をかけた話し合いのもと、何が今ご本人やご家族にとって必要な支援なのか検討し、他のサービスが必要な時には情報提供や紹介を行っている。			
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者1人1人の力量を見極め、出来る範囲で共に行えるようなものを探している。洗濯・掃除・買い物・茶碗洗い・散歩しながらのゴミ拾い、ボランティアとしての商店街お祭りのペーパーフラワー作り等を一緒にやってもらっているが、その中で人生の先輩として職員が入居者から教えてもらうことは大いにあると感じている。			
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時、家族に近況報告・情報交換を行い、状況に変化が見られたときには相談にのってもらう等をして介護計画に反映している。ご本人を支えるためにご家族の存在はもっとも重要との認識のもと、面会の制限は行わず、また誕生会や行事への招待、外出行事への参加のお誘いを行っている。			
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	1人1人の情報収集やアセスメントを丁寧に行い、日々の様子を把握しながらご本人の希望を出来る限り実現出来るよう個別ケアに力を入れている。	一人ひとりのその日の希望にそって、日常的に散歩を楽しみながら地域の一員として町内のゴミ拾い等を行ったり、自宅への訪問等で馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然とホールに集まる雰囲気になっているが、孤立している様子が見えるときには職員が一緒にお茶を飲んだり、軽作業をする場を作っている。入居者同士の関係を見ながら、時々席替えを行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も相談を受ける体制は出来ている。入院してひだまりを退居された方のご家族より様々な相談を受けることがある。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の情報収集やアセスメントを丁寧に行い、日々の様子を把握しながらご本人の希望を出来る限り実現出来るよう個別ケアに力を入れている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、日常的な散歩や買い物、雪はねや刺し子等の役割や趣味への支援を行い、職員間で情報の共有が行われている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族・交流のあった方々からの情報収集・並びにこれまで関わって来たサービス事業所と連携をとり把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化に応じて個別アセスメントシートを変更。身体状況の変化、生活パターンを把握。全職員がいつでも閲覧出来るようそれぞれの介護記録をファイルしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を確認し、毎月の会議や、日々の申し送り意見交換を行い、職員の意見や気づき・介護記録やセンター方式での分析を反映させ、介護計画を立てている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人や家族の意見・要望を採りいれている。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護計画には一人ひとりの様子やケア内容、気づき等が具体的に時系列に記載されている。職員であれば誰でもいつでも確認出来るようになっており、介護計画の見直しや日々の実践に生かせることが出来るようになっている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に応じて、医師・看護師の往診や受診、訪問美容、訪問マッサージ、また、雪の季節以外毎日出かけている散歩、買い物、外出、ユニット間で行われるひだまりクラブへの参加等柔軟な支援を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防機関とは避難訓練を通し、連携を図っている。民生委員・町内会長にはご家族と共に地域推進会議への参加を頂いている。また、ボランティア(芸能・演芸・お話など)を積極的に受け入れている		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診先は、入居時に馴染みの医療機関の受診希望があれば継続している。特に希望がない場合には説明を行い、当ホームの協力医療機関を紹介している。それぞれの入居者が定期受診に加え、緊急時に相談したり、往診して貰えるかかりつけ医を確保している。また、週2回の看護師の訪問もあり、職員では把握しきれない健康管理や24時間の相談を受けて貰っている。	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっていて、医師の往診や看護師との連携で24時間体制で適切な医療を受けられるように支援している。また、通院や緊急時に対応した支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	項目30に関連。医療機関・看護師による医療連携体制をとっており、24時間365日の支援体制が整っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時同行・同席していることからほぼ入院前より病院関係者と情報交換しており、入院中もなるべく多く職員が訪問し、相談する機会を作っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	先を見据えて介護を提供するために、早いうちに終末期のあり方についてご本人・ご家族と話しあう機会を設けている。但し、現在、看護師が勤務している状況にないので常時医療的処置が必要になった場合、入院となる場合が多い。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、医師・看護師、職員が連携をとり、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調の変化や事故発生時は、すぐ医師や看護師に連絡がつくようになっており、連絡先が掲示されている。急変時マニュアルがあり、AEDも設置されている。使い方の講習も行ったが、定期的に行われているわけではないので、時々確認することが必要と感じている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回防災訓練を行っている。近日中に行う予定である。	昨年、秋頃にスプリンクラーの設置が完了している。また、消防署の協力を得ながら年2回の火災避難訓練を実施し、火災報知器等の設備の定期点検も行われている。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来るだけ自分でやれる誇りを大切にしながら、職員は言葉をかけ、また、対応・記録にはプライバシーとプライドに十分配慮している。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止の学習会を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間で周知している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いを受け止め、力量に合わせ、自分で決める場面を作っている。例えば、嗜好について医師の許可の範囲で、タバコ・アルコールや食べたいものを聞いて用意、毎日が少しでも満足して貰えるように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当ホームで決まっていることといえば、おおよその食事やおやつの時間、入浴日くらいである。その他は各人が好きなように暮らしている。例えばレクリエーションなどへの参加もご本人の意志であり、強制することはしない。極力希望を確認し、体調に合わせて支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に合わせ、身だしなみやおしゃれを楽しんでいる。洋服や身の回りの物を自分で選んで購入したり、職員にお化粧をしてもらったり…理美容に関しては訪問が主であるが、カットだけでなく、パーマをかけたり、毛染めをしたりとおしゃれを楽しんでいる。また、ご家族の希望に合わせて、なじみの理美容院を利用することもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みやそれぞれの食べやすい形を考慮して、各自の箸やスプーン・フォークを用い、ゆっくりと自分のペースで食事を摂っている。能力にあわせて準備・片付けに参加している。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に食事の準備や後片付けをしている。また、おやつ作り等で職員の創意工夫が見受けられる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェックし各自に合わせた摂取が出来るよう好みのもも考慮しながら支援している。月初めに定期的に体重測定があり、医師や看護師に報告し、一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日に3～4回、個々の状態に合わせ、こえかけ、口腔支援を行っている。就寝前には入れ歯をはずし、入れ歯ケースに洗浄剤と共に保管することになっている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は便秘が続くことでの体調の変化を理解しており、体を動かす機会や食事についてさりげなく入居者にこえかけをしている。朝食時には毎回牛乳を提供し、食事のバランスを考え、繊維質の大塚物を摂ってもらっている。運動の機会を作り、便秘予防に努めている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘が続くことでの体調の変化を理解しており、体を動かす機会や食事についてさりげなく入居者にこえかけをしている。朝食時には毎回牛乳を提供し、食事のバランスを考え、繊維質のおいしいものを摂ってもらっている。運動の機会を作り、便秘予防に努めている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週2回の入浴であるが、回数に拘わらず、希望や必要性があればいつでも変更出来るようになっている。また、入浴日が決まっても、入浴時間帯は各入居者の都合や希望に合わせて、拒否があるときもタイミングをはかり勧めている。	週2～3回の入浴を目安に一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、利用者の状況に応じて時間帯の調整を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活習慣に合わせてゆったりと過ごしている。前夜の睡眠状態・体調に合わせて、休息がとれるよう支援している。夜眠れない入居者は医師に相談し、生活のリズムの見直しを行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬内容は一括してファイルしており、職員はいつでも確認出来るようになっている。飲み忘れ・誤薬がないよう個人名・服薬日・処方病院名・または薬名等が記載されており、職員が何重にも確認するシステムになっている。また、処方が変わったときは業務日誌に注意点と共に記入、職員全員が周知出来るようまた、症状の変化が確認出来るよう努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来るだけ日々の生活の中で、個々の能力に合った役割を持つよう支援している。それぞれの状態に合わせて、食器洗い・食器拭き、洗濯、洗濯物干したたみ、掃除や野菜の水やり、熱帯魚の餌やり、趣味を生かした手芸、冬期間の雪かき等様々なことを行っている。また、昨年よりボランティアとして商店街夏祭り用の花開き作りを通年で参加し楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	皆で出かけるドライブだけでなく、基本的には毎日の近所の散歩(但し冬期間は中止)や希望に応じた買い物、敷地内の畑での収穫等その日の状況に合わせ、戸外に出る機会はある。	一人ひとりのその日の希望にそって、冬期間を除いて毎日散歩に出かけたり、自宅の訪問や買い物、畑作業やパークゴルフ等戸外に出かけられるよう支援している。また、ひだまり交流祭りの開催で地元の人々との交流に努めている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望により、買い物の機会を出るだけ作るようにしている。個々の力量に合わせ、支払いが出来るように見守り・支援をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は日常にかけるている。手紙を書く機会が減っており、またなかなか書く意欲が見られないが、楽しいことがあったことをご家族に知らせるために写真と共に職員の支援を受けながら書いている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、自然と集まる雰囲気があるが、落ち着いて過ごせるようテレビをつけっぱなしにせず、音楽の音量にも配慮している。隅々まで室内の明るさに気をつけている。また、月替わりで、皆で作った季節感を取り入れた掲示を楽しんでいる。	ウッドデッキや畑が用意され、楽しみごとへの支援が行われていたり、明るい共用空間には、中学生が訪問した時の写真や利用者の刺し子や習字等の作品が飾られる等本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いベランダやリビングにはソファ、1人がけ椅子があちこちに配置されている。また、居室は個室であり、気のあった者同士が訪問しあったり自由に過ごしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居時にご本人・ご家族と相談し、今まで使っていたなじみの物(ベッド・椅子・タンス鏡台など)や好きなものを持ち込んでいただき、なるべくこれまでと変わらない環境作りに努めている。	居室は、手作りの作品や家族の写真、家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差は極力なく、広々した内部である。階段は滑り止めマットを敷き必要箇所には手すりがあり、段差も低く昇降しやすくなっている。床には転倒に繋がらないよう不用なものは置かない等配慮している。また転倒の危険性が高い方や歩行困難の方のために、エレベーターが整備されている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901613		
法人名	有限会社 ライフステージ		
事業所名	グループホームひだまり Bユニット		
所在地	旭川市神楽4条1丁目3番5号		
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果市町村受理日	平成23年3月7日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901613&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が安心して地域で暮らせるよう支援しています。ご家族様とは面会時や必要に応じて常に入居者様の毎日の様子をご家族様に伝えたいとの思いから、個々の毎日の様子を一日日記に記録し一ヶ月まとめ、個々の毎月御家族様に郵送し、ホームでの日々の様子を伝えている。利用者様のそれぞれの思いを把握し、日々充実しながら楽しく過ごせるようにしていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ふれあい」「支えあい」「思いあい」「語りあい」「広げあい」5つの「あい」を掲げている。自分の意思で自分らしく暮らすことができるような、温かな環境作りを目指している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の幼稚園や中学校のボランティアなど受け入れ交流を図っている。毎年ひだまりの夏祭りに、地域の方を招待し親しい関係になってきている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の相談など、入居者のみにかかわらず地域の方などからも相談があったときには情報を提供している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者のご家族や地域の代表の方々等、多くの方の参加により、回を重ねる毎に様々なご意見やアドバイスをいただき、理解も深まっている。私たちにとってサービスだけではなく意欲の向上にもつながっている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市で行われている研修会には、積極的に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束をしないケアを理解し取り組んでいる。日中は施錠せず、自由に出入りでき、徘徊のある方については、本人に寄り添い一緒に歩いたり利用者本位の生活を心がけている。夜間のみ防犯上の観点から、玄関を施錠している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の話し合いの場や、研修会に参加し、どうゆうことが虐待なのかという認識があり、全職員が虐待しないという点で考えが一致している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修にて権利擁護や成年後見制度を学んでいる。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、口頭・文書で説明し、理解を得ている。退居に関しては、納得していただけるよう十分な説明をしており、スムーズな対応が出来ている。			
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見が出しやすい雰囲気を作り、日々の生活の中で受け入れ反映している。 運営推進会議において、話しやすい場を作っている。玄関前に意見箱を設置している。			
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の全体会議後、カンファレンスにて、意見交換や提案を聞く機会を設けている。			
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員に役割を与え、それぞれが自分の存在を示し、価値を上げていける環境作りをしている。また、様々な悩みや不満等をいつでも聞き入れ、職員が話しやすい環境作りをしている。			
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外部の研修には、積極的に参加することを勧めている。また、資格習得には資料や情報の提供することで応援している。			
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会にて他の事業所の方との交流や勉強会、相互訪問等の活動があり、サービスの向上に繋がる取り組みをしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接の段階で十分な話し合いをし、本人の生活スタイルに応じた場面をスムーズに提供できるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	GHでなければ出来ない事、本人へどのような形で支援していくのかを互いに情報交換し、安心して入居できるよう話し合っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今ご本人やご家族にとって必要な支援は何なのか検討し、他のサービスが必要な時には情報提供や紹介を行っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者1人1人の力量を見極め、出来る範囲でもに行えるようなものを探している。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	様々な場面において、密な情報交換を行うだけでなく、イベント等にも積極的に参加していただけるよう声がけをし、入居者が孤独を感じることなく、過ごしやすい環境作りに努めている。外出時や行事のある時は支援してもらう。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、兄弟、友人等の面会や外出などを積極的に呼びかけたり、支援をしている。また、なじみの場所がある方にはドライブにて見学に行ったりしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の共通点を見つけ、馴染みやすいようにしている。気の合う人同士の食事の時の席を近くすることで互いに声を掛け合い支えあうことがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も相談を受ける体制は出来ている。長期に入院になり、退去された方のご家族より様々な相談を受けることがある。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の情報収集や、アセスメントを丁寧に行い、日々の様子を把握しながらご本人の希望を出来る限り実現できるよう個別ケアに力を入れている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族・交流のあった方々からの情報収集・並びにこれまで関わってきたサービス事業所と連携を取り把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化に応じ、個別アセスメントシートを変更。身体状況の変化、生活パターンを把握。全職員がいつでも観覧できるように、それぞれの介護記録をファイルしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を確認し、毎月の会議や、日々の申し送りにて意見交換を行っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の他に申し送りノートにて受診内容や変化・家族の要望等、随時記録している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業者として対応できる範囲において、相談、支援できるよう努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	デイサービスの利用者様や、そこに慰問に来られるボランティアとの交流など色々協力を得ている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望、同意のもとかかりつけ病院の往診を定期的に受けている方がいる。また歯科医も必要に応じ往診に来て貰っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療機関・看護師による医療連携体制をとっており、24時間365日の支援体制が整っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時同行・同席をしていることから、入院中も職員が訪問し、相談する機会を作っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	先を見据えて介護を提供するために、早いうちに終末期のあり方について、ご本人やご家族と話し合う機会を設けている。但し、常時医療の処置が必要な場合は入院となる場合が多い。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時は、すぐ医師や看護師に連絡がつくようになっており、連絡先が掲示されている。急変時マニュアルがあり、AEDも設置されている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回防災訓練を行っている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を尊重し、誇りを損ねないよう個々人にあった対応、声掛けを行っているが、職員の意識や能力に格差があり、まだ改善の必要がある。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人ひとりとの関わりを大切にと個々人に合った言葉使いなどで対応したり、自己決定してもらえるような言葉かけなどの方法を取っているが、職員の力量に格差があり、日々研鑽に努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人がその日の状態に合わせ自己決定できるよう能力に合った選択をしてもらえるようにしている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に合わせ、身だしなみやおしゃれを楽しんでいる。洋服を自分で選んで着たりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の力を活かしながら一緒に行っている。			
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は把握している。一日を通して必要な食事や水分が摂取出来る様に支援している。個々人の状態に合わせお粥・刻み・トロミで提供したり、食器も個々に合ったものを提供しスムーズに摂取してもらえるように支援している。口腔ケアの必要性は全職員が理解し取り組んでいる。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性は全職員が理解し取り組んでいる。毎食後のうがい・歯磨きは声掛けにより個々人の状態に合わせた援助を行っている。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々人の残存機能を可能な限り活用しトイレで用を足す援助を行っている。また誘導時の声掛けや、失禁時の対応時、羞恥心やプライドを尊重し援助するよう心掛けている。			
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりに応じた自然排便を促すため、適度の運動、食べ物の工夫等予防的な支援と、医師の処方による下剤、整腸剤の服薬を行っているがそれでも改善しにくい方も居られるため今後も対応の検討が必要。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回は入浴できる体制を作っている。バイタルや健康状態を確認しながら一人ひとりの意向を第一に寛いだ気分で入浴出来る様に、また羞恥心・恐怖心・負担感等負わせるなく、無理強いすることのないよう支援している。			
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動が夜間の睡眠につながる様意識して援助している。就寝時間は個々の意向を尊重しているが寝つきが悪かったり、途中覚醒の人とはゆったりとした気分で関わりを持つようにしているしかし必要時は医師に相談している。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	小さな変化を見逃さないよう薬については、医師との連携を図りながら正確な用法や容量の理解に努めている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりに合った役割や作業等楽しんで継続していけるよう援助している。歌を唄う事が好きな方が多いので皆で唄う時間を毎日取り入れてたり、外出の機会を設け気分転換を図ったりと少しでも楽しみのある生活を送ってもらえるように支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々人の意向に沿い季節を感じていただける場所に出掛けたり、ドライブしたり、また施設周辺の散策、外気浴等で気分転換を図っていただいている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所側でお預かりしている方など、個人の能力に応じた対応をしている。職員と一緒に買い物し、自分で選び自分で支払う喜びをもっと感じてもらえるよう継続して支援して行きたい。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は日常的にかけている。手紙は書く機会も減り、意欲も見られないが、楽しい事などあった事をご家族に知らせるために、写真と共に職員の支援を受けながら書いている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた雰囲気を感じていただけるようにホールに花や物を飾ったり、温度・湿度・換気は1日数回、チェックし調節し利用者様が居心地良く過ごせる様に環境整備を意識的に行っている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに長椅子、ソファを数箇所に置き、気の合う人同士談笑されたり、利用者様の状況のんびり過ごして頂いている。身体機能の変化に伴い、ソファ、食事テーブルの配置換えも検討して行く必要がある。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前にご家族にご自宅の部屋となるべく近い状態の中で過ごして頂く必要性を説明し馴染みの家具・調度品を持っていただき、少しでも居心地良く安心して過ごしてもらえるようにしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当事業所は施設の2階になっているためエレベーター、階段の両方を利用者様の身体状態に合わせて利用している。不要なものは出来るだけ置かないようにしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ひだまり

作成日: 平成 23年 3月 2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会が委員の日程調整の為に、定期的開催に至っていない。	年6回を目安に定期的に開催していく。	委員との日程調整や包括支援センター職員の会議への参加を呼びかけていく。	12ヶ月
2	34	利用者の急変時に備えてAEDを配備しているが、使用方法について継続的に研修会を実施していない。	消防署の協力を得て、緊急時の対応の訓練を実施する。	消防署に訓練の申し込みをする。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。